

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街神田 1階		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	令和3年8月19日	評価結果市町村受理日	令和4年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaj.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2297200558-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kaj.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2297200558-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年8月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住み慣れた地域で、安心できる環境の中でこれまで築き上げてきた家族や地域社会との関係を断ち切ることなく、暮らしていけるよう支援しています。しばらくの間、外部から招いてのイベントは自粛している中、今年、アイケア30周年ということで、記念イベントを予定しています。「コロナ過で沈んだ気持ちが少しでも明るくなり楽しいひと時を過ごしていただけるように」と、会社全体が一丸となって開催するイベントです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

川の水位が上がりそうなどときには駐車場を地域に貸し出す協力もおこなっていて、コロナ禍以前は「お達者クラブ」の集まりにも出かけていましたが、現在はほとんど交流はありません。職員数が足りず、管理者が夜勤にはいって日中不在がちなことや、定着率がはかばかしくなく職員の入れ替えもあることは課題なもの、「1階の職員は2階の職員に挨拶してから仕事を始め、帰るときにもしよう」ということは此処1年ほど続けていて、看取りにおいても公休でもお見送りに立ちあうために事業所に駆けつける、気持ちのある面々が事業所を支えています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい挨拶、明るい対応」を理念とし、明るく元気に過ごしていただけるよう、笑顔で対応している。	「1階の職員は2階の職員に挨拶してから仕事を始め、帰るときにもしよう」ということは此処1年ほど続けています。挨拶だけで終わらずに二言、三言立ち話が増えて、職員間の雰囲気も心持ち柔らかくなっています。	理念を共有するための仕組みを適切に構築するとともに、実践の振り返りの場を持つことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的に、近所の方とのあいさつを交わしている。	自治会に加盟し、回覧板も廻ってきています。コロナ禍前は「お達者クラブ」の集まりにも出掛け、地域のお年寄りとの交流がありましたが、現在は散歩で挨拶を交わす程度に留まっています。	他のサービス種別も併設されているため、回覧板に事業所通信をはさんでもらい、コロナ禍であってもオープンな関係が築けると、なお良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員との連携を通して、周知してもらっている。長年の積み重ねにより、信頼関係を築き上げてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議時に、施設の現状報告をし、意見を求めて助言をいただいている。過去二回分は、紙面開催となっている。	運営推進会議は、コロナの状況に応じて書面開催とすることがあり、過去6回の内メンバーが集まったのは4回です。議事録は手渡しか、FAX送信で、返信シートはないため、意見を集めることはできていません。	書面開催の場合、メンバーにご意見シートを渡す等してツウエイとすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前より、運営推進会議に出席してもらっていたが、コロナ禍により、直積的に交流はできていない。	コロナ禍前には地域包括支援センター主宰の案内を利用者家族や職員にアナウンスしたり、講師を依頼されて協力したこともありますが、現在は空室の問い合わせが先方から入るとき電話で話すのみで、事業所からは特段連絡していません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、抑制・拘束のない施設を目指し、実践している。	身体拘束廃止に関する指針を備え、身体拘束廃止委員会は運営推進会議の合同開催としていますが、身体拘束廃止委員会の議事録と新入社員の研修記録は十分な形とは成っていません。研修は2回でよいところを3回実施と丁寧です。	記録については今後の整備を期待します。また、議事録は「周知徹底」の証として回覧印があると、なお良いと思います。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、ミーティング時に、研修内容を職員に落とし込み、理解を深めて、虐待防止を徹底している。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて、代表者が参加して、ミーティング時に、研修内容を落とし込み、理解を深め、日々の業務に取組んでもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、説明しながら、不安や疑問点を尋ねて、理解、納得していただいている。利用開始してからも、何か不明点があれば、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望に対して、その都度迅速に対応している。施設に直接言えない場合は、本社窓口があり、契約書等に記載して周知している。	専門医受診の介助や、コロナ禍のため代理受診で葉だけ届けてくださったり、衣がえ、消耗品の補充と、面会は縮小されていても来所そのものは継続されていて、立ち話的な情報交換は叶っています。	次の2点を期待します。①(家族の窓口、利用者の拠り所となる)居室担当者の設置 ②1ヶ月の様子を书面で家族に届ける
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、日頃のコミュニケーションの中で行い、その都度上長に報告して、本社に伝えられ、反映させている。	管理者が職員とコミュニケーションをとっていきたいと考え、併設事業所と合同でおこなっていた研修会を単独とし、意見が出やすいように変えており、「何か手伝うことありますか」との声が入るといった変化がみられます。	施設長やリーダーの補佐があるとはいえ、管理者の勤務の大半が夜勤帯なことは重大な課題として早期改善を望みます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。キャリア・パス制度も導入されている。また、人事考課システムも導入され、給与水準向上に活かされている。離職を減らすために働きやすくやりがいが持てる環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を毎月行っており、参加している。外部研修も、希望者は参加してもらうよう対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、外部での研修は少なくなり、以前に比べて、交流する機会は減っているのが現状である。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人と会話をしたり、コミュニケーションをとっている。情報収集をもとに安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して入居していただけるように、事前にあセスメントをとり、困っていることや意向など伺い、サービスにつなげている。馴染みの関係を保ち、その日その時の状況に応じた対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時、本人や家族に今何が必要なのか伺う。ご本人やご家族がグループホームでの生活に望むことを聞き、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様それぞれに合った役割を提案し、掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、食器洗いなどを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により状況に応じて、面会制限をする事もあるが、事前に連絡をいただき、応接室にて面会できるように体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、外出を制限している中、事前に連絡をいただき、応接室にて面会等に対応している。	面会は、窓越しでなんとか続けることができています。パズルや塗り絵など得意なものを提供し、脳トレが好きな人は「こんな簡単なのは困る」と虚栄心を醸し出しつつ励んでいて、家族が色鉛筆や台紙を購入してきてくれる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係構築と、それ以外の利用者同士も、職員がパイプ役になり毎日穏やかに生活できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談もあり、その都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知度レベルが落ちてきているため、それぞれの思いや希望をうかがっても難しい人もいるため、普段の会話の中で探し出している。	職員数も厳しい中、イベントができていないことが課題ですが、飲み物は珈琲やカルピス、アップティー、ココア、スポーツ飲料等様々揃えて「選ぶ」という場面を提供しています。アセスメントは1年に1回更新しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き取り、馴染みやすい生活環境になるように、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き取り、馴染みやすい生活環境になるように、他ご利用者様とストレスなく一緒に生活できるかその実態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人がご利用者様の現状把握に努め、ケア内容について希望があればカンファレンスを行い、担当者会議を開くなどして家族と相談。よりよい生活ができるようミーティングで話し合っている。	システム化された申し送りに、1年を経てやっと慣れ「食事がとりづらい」「独語が増えた」の状況把握でミニカンファレンスとなり、家族にも連絡して介護計画の実践に手を加えています。また介護計画書2表の担当者欄には看護師も入っていて安心が滲みます。	サービス担当者会議の出席をお願いする等、家族が介護計画書の内容を理解したかについて確かな方法をとっていくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食量や排泄など毎日様子を観察し、気づいた点があれば、随時報告、話し合い、個別記録やスタッフ連絡ノートに記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的機能低下や認知症の症状が悪化したkとおでここに何が出来て、何が出来なくなっているかの問題点や課題をあげ、ミーティングにて検討し職員一人一人が柔軟に考え対応できるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば、対応にあたっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、訪問診療は行っている。また、医師からの助言・家族の希望を含め適切に対応している。	月2回の訪問診療をおこなう協力医に、全員が変更しており、専門医は家族が付添っています。立ちあいはその日の勤務者と非常勤の看護師で、電子記録ノートに内容を記載しています。また職員に周知させたいときは連絡ノートを使用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察を基に、気づいた点・変化等を看護師に報告し指示を仰ぐ体制は確立している。看護師の指示の下、適切な対応ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を実施し、病院医療連携室との関係づくりを円滑に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント時、または契約時に終末期においても入居可能であることを、医療的な処置が必要な場合を除き説明し、ターミナルの考え方を本人・家族に確認するなど、柔軟に対応している。	7月に医師の入れ替えがあり、24時間連絡がつくようになって安心が膨らんでいます。コロナ禍となってから看取りが2名あり、内1名は家族も泊り込んで、「やりきった」感があります。休みの日なのにお別れに職員が集まってくることは事業所にとって財産です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・内部研修にて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練・避難訓練等実施している。法人でも対策本部が置かれており、いつでも援助してもらえる体制が整っている。地域の方々にも協力をお願いしている。	火災想定での避難経路の確認、駐車場まで避難、車いすの人の予行演習を主なメニューとし、これから2回実施する予定です。職員の交代があったので同じ内容で繰り返すことを重視しています。水や食糧は本社が期限管理をおこなっています。	次の4点を期待します。①年2回の実施を半年毎におこなう ②新人は着任日に防災に係るレクチャーをする ③職員の習熟度について把握するために一覧表を作成する ④消防署の応援がない場合は防災業者の点検日に実施する

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として、人生の大先輩としてのプライドを傷つけないよう職員一人一人の言動に注意し、対応にあたっている。	尊厳を護るために工夫していることは特にありませんが、「居室前のノック」や「タオルで隠す」といった基本的なことはどの職員もできており、事業所としても同性介助の希望にはシフトを調節する態勢があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生きてきた生活習慣や環境、または性格や年齢も違うため、決められたスケジュールに縛られずに個々のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の組み合わせを考えたり、訪問理美容に来てもらい、カットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスで提供するお食事の味付けを直したり、盛り付け等を工夫している。 食事後の片付け時、お盆を拭いてもらっている。	ほぼ完成品の状態で業者から惣菜が届いており、刻み3名の分は職員が手を加えるほか、味付けも一辺倒になりがちのため、職員で調整しています。また誕生日にはパンケーキにホップクリームでデコレーションで飾って祝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、水分量を記録し特別な状態であれば、主治医または看護師に連絡し、指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ誘導にて行っている。自立しているご利用者様に対して、必ず最後に口腔内の確認をとっている。入れ歯の方も確認をとり、洗浄液につけるなど清潔を保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて個々の排泄パターンを把握し、確認をとりながら、トイレの声かけ誘導をし、対応している。	尿意があって自分でトイレに向かう人は15名(その日の状態によっては職員の補助が必要)、定期誘導が3名で、全員トイレで済ませることができていて、排泄の自立度が高いことが目を惹きます。ただ便秘はありがちのため、水分を多めにとるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表に排便の量など記録している。便秘にならないように、水分を補給してもらおうよう声かけしている。便秘が続くようであれば、看護師に伝え、主治医に連絡または訪問診療時に報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴管理表やその日のバイタル状況を確認し、入浴の声かけをしたり、本人の希望に応じている。	湯は一人ひとり入れ替えていて、入浴剤を主体的に選べる環境にあり、清潔第一としています。平均介護度2.3も影響しているのか「入りたい」という人が比較的多くいて、拒否もなく、職員とのおしゃべりで楽しい入浴となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心、安全な環境を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をコピーし各ユニットで保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。状況に変化があれば、往診の先生に連絡・相談をかける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様に応じて、興味ある事に取り組んでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により、外出は出来なくなってきているが、近隣への散歩は行っている。	涼しい日を選んで散歩したり、中庭で外気浴をおこなっていますが、外出支援はコロナ禍前のようにはいかず、外食やうなぎパイ工場、水族館、法多山詣などで遠い日々となっています。	「コロナだから仕方ない」とせず、「コロナだからできること」に努めていくことを期待します(お取り寄せグルメ、降りないドライブ、旅・自然DVD鑑賞、回想法、貸し切り外食etc.)



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いのもと、実行できるときはしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあれば、自由にやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方達が混乱しない環境整備を心掛けている。空調も多種多様な希望があるため、できる限り一人一人の希望を聞くよう努力している。季節ごとの花を飾ったり、掲示物を貼ったりして楽しんでもらえるよう心掛けている。	アルコール消毒と換気を2時間に1回と、定期運用が徹底されてており、また空気中のウイルスを撃退する空間除菌装置の導入でインフルエンザにかかる人がいなくなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで同テーブルの人と過ごしたい人やソファや畳、居室で過ごしたい人など希望に沿った場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるよう契約時に使い慣れた物を用意していただくよう伝え、普段の就寝状態を崩さないようにしている。	テレビを持ち込んでいる人は5名います。バラエティ番組などをよく見ている様子で、22時頃まで起きている日もあります。その日の気分で家族に手紙を書く人もおり、また家族も「コロナ禍で会えないから」と孫の入学式の写真が届いた人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに名前を付け、目的の場所に行けるようにしている。また、安全に生活できるようゆとりある空間作り、環境作りを心掛けています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297200558		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街神田 2階		
所在地	静岡県浜松市中区神田町865番地		
自己評価作成日	令和3年8月19日	評価結果市町村受理日	令和4年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2297200558-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=2297200558-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年8月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住み慣れた地域で、安心できる環境の中でこれまで築き上げてきた家族や地域社会との関係を断ち切ることなく、暮らしていけるよう支援しています。しばらくの間、外部から招いてのイベントは自粛している中、今年、アイケア30周年ということで、記念イベントを予定しています。「コロナ過で沈んだ気持ちが少しでも明るくなり楽しいひと時を過ごしていただけるように」と、会社全体が一丸となって開催するイベントです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

川の水位が上がりそうなどときには駐車場を地域に貸し出す協力もおこなっていて、コロナ禍以前は「お達者クラブ」の集まりにも出かけていましたが、現在はほとんど交流はありません。職員数が足りず、管理者が夜勤にはいって日中不在がちなことや、定着率がはかばかしくなく職員の入れ替えもあることは課題なもの、「1階の職員は2階の職員に挨拶してから仕事を始め、帰るときにもしよう」ということは此処1年ほど続けていて、看取りにおいても公休でもお見送りに立ちあうために事業所に駆けつける、気持ちのある面々が事業所を支えています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい挨拶、明るい対応」を理念とし、明るく元気に過ごしていただけるよう、笑顔で対応している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的に、近所の方とのあいさつを交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員との連携を通して、周知してもらっている。長年の積み重ねにより、信頼関係を築き上げてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議時に、施設の現状報告をし、意見を求めて助言をいただいている。過去二回分は、紙面開催となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前より、運営推進会議に出席してもらっていたが、コロナ禍により、直積的に交流はできていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、抑制・拘束のない施設を目指し、実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、ミーティング時に、研修内容を職員に落とし込み、理解を深めて、虐待防止を徹底している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて、代表者が参加して、ミーティング時に、研修内容を落とし込み、理解を深め、日々の業務に取り組んでもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、説明しながら、不安や疑問点を尋ねて、理解、納得していただいている。利用開始してからも、何か不明点があれば、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望に対して、その都度迅速に対応している。施設に直接言えない場合は、本社窓口があり、契約書等に記載して周知している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、日頃のコミュニケーションの中で行い、その都度上長に報告して、本社に伝えられ、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合に加入しており、夏季・冬季・年度末に交渉を行っている。キャリア・パス制度も導入されている。また、人事考課システムも導入され、給与水準向上に活かされている。離職を減らすために働きやすくやりがいが持てる環境づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を毎月行っており、参加している。外部研修も、希望者は参加してもらうよう対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、外部での研修は少なくなり、以前に比べて、交流する機会は減っているのが現状である。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人と会話をしたり、コミュニケーションをとっている。情報収集をもとに安心してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して入居していただけるように、事前にはアセスメントをとり、困っていることや意向など伺い、サービスにつなげている。馴染みの関係を保ち、その日その時の状況に応じた対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時、本人や家族に今何が必要なのか伺う。ご本人やご家族がグループホームでの生活に望むことを聞き、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様それぞれに合った役割を提案し、掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、食器洗いなどを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により状況に応じて、面会制限をする事もあるが、事前に連絡をいただき、応接室にて面会できるように体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、外出を制限している中、事前に連絡をいただき、応接室にて面会等に対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係構築と、それ以外の利用者同士も、職員がパイプ役になり毎日穏やかに生活できるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡や相談もあり、その都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知度レベルが落ちてきているため、それぞれの思いや希望をうかがっても難しい人いるため、普段の会話の中で探し出している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き取り、馴染みややすい生活環境になるように、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き取り、馴染みややすい生活環境になるように、他ご利用者様とストレスなく一緒に生活できるかその実態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人がご利用者様の現状把握に努め、ケア内容について希望があればカンファレンスを行い、担当者会議を開くなどして家族と相談。よりよい生活ができるようミーティングで話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言葉の変化や身体状況、食事量や排泄など毎日様子を観察し、気づいた点があれば、随時報告、話し合い、個別記録やスタッフ連絡ノートに記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体的機能低下や認知症の症状が悪化したkとおでここに何が出来て、何が出来なくなっているかの問題点や課題をあげ、ミーティングにて検討し職員一人一人が柔軟に考え対応できるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望があれば、対応にあたっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、訪問診療は行っている。また、医師からの助言・家族の希望を含め適切に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察を基に、気づいた点・変化等を看護師に報告し指示を仰ぐ体制は確立している。看護師の指示の下、適切な対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を実施し、病院医療連携室との関係づくりを円滑に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回アセスメント時、または契約時に終末期においても入居可能であることを、医療的な処置が必要な場合を除き説明し、ターミナルの考え方を本人・家族に確認するなど、柔軟に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・内部研修にて行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練・避難訓練等実施している。法人でも対策本部が置かれており、いつでも援助してもらえる体制が整っている。地域の方々にも協力をお願いしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として、人生の大先輩としてのプライドを傷つけないよう職員一人一人の言動に注意し、対応にあたっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生きてきた生活習慣や環境、または性格や年齢も違うため、決められたスケジュールに縛られずに個々のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の組み合わせを考えたり、訪問理美容に来てもらい、カットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスで提供するお食事の味付けを直したり、盛り付け等を工夫している。 食事後の片付け時、お盆を拭いてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量、水分量を記録し特別な状態であれば、主治医または看護師に連絡し、指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ誘導にて行っている。自立しているご利用者様に対して、必ず最後に口腔内の確認をとっている。入れ歯の方も確認をとり、洗浄液につけるなど清潔を保っている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表にて個々の排泄パターンを把握し、確認をとりながら、トイレの声かけ誘導をし、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄管理表に排便の量など記録している。便秘にならないように、水分を補給してもらおうよう声かけしている。便秘が続くようであれば、看護師に伝え、主治医に連絡または訪問診療時に報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴管理表やその日のバイタル状況を確認し、入浴の声かけをしたり、本人の希望に応じている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心、安全な環境を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をコピーし各ユニットで保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。状況に変化があれば、往診の先生に連絡・相談をかけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様に応じて、興味ある事に取り組んでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出は出来なくなってきているが、近隣への散歩は行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いのもと、実行できるときはしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えがあれば、自由にやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方達が混乱しない環境整備を心掛けている。空調も多種多様な希望があるため、できる限り一人一人の希望を聞くよう努力している。季節ごとの花を飾ったり、掲示物を貼ったりして楽しんでもらえるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで同テーブルの人と過ごしたい人やソファや畳、居室で過ごしたい人など希望に沿った場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活できるよう契約時に使い慣れた物を用意していただくよう伝え、普段の就寝状態を崩さないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに名前を付け、目的の場所に行けるようにしている。また、安全に生活できるようゆとりある空間作り、環境作りを心掛けている。		